

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 1 月 7 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 6名	(依頼数) 9名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3873900470
事業所名	グループホーム虹の森
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 20 日

<p>【事業所理念】 家庭的な雰囲気の中に、マンネリ化にならないよう「愛と真心と思いやりの心」でサポート致します。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ○1人1人の人格を尊厳し、常に敬意を払う態度に努めるため、言葉選びやトーンなどのコミュニケーション技術を習得する・適切な言葉・態度で接している。 ○地域の中の事業所として、ネットワーク会議に参加しアピールすることで、他業種との連携を保つ。・施設アピールが出来、包括・社協・主治医・他事業所との交流が持てた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 約1年前に新築移転した事業所の建物は新しく、利用者や来訪者は気持ちの良さを感じる。事業所周辺は田んぼに囲まれ、のどかな雰囲気の中で、利用者は四季の移ろいを感じながら、ゆったりと生活を送ることができる。法人として、町内で複数の施設や事業所を展開しており、虹の森は法人で一番最初にできた事業所で、基本環境が整えられるとともに、利用者への支援にも力を入れている。また、町内には、行政を含む、医療や保健、福祉関係者で組織する「地域ネットワーク会議」があり、事業所として参画するとともに、連携・協力体制が構築されている。さらに、法人・事業所として、有給休暇や希望休暇の取得のほか、日勤のみのシフトの希望に対応するなど、働きやすい職場環境づくりに努めており、職員同士や利用者との良好な関係が保たれ、近年離職者はいない。</p>
---	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	一人一人の生活歴や趣味嗜好を把握し、衣類選びや活動時には本人の意向を伺っている。	◎	/	◎	入居時に、計画作成担当者等は利用者や家族から、思いや意向を聞き取るよう努めている。また、日々の生活の中で、職員は利用者から思いなどを聞いている。さらに、思いなどの表出が難しい利用者には、表情やしぐさなどから汲み取れるよう努めるとともに、迷った場合には家族に相談するようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	性格や趣味・思考を考慮し、表情や発言をくみ取り、支援に生かしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時や面会時、体調の変化があった時など、家族に連絡し、報告や相談を行い、支援に生かしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	家族と話し合うこともあるが、職員が主体になる事が多い。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	ご利用者の言動を観察し、話を傾聴するようにしているが、表情が乏しいなど、困難な場合には職員が決めることもある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	インテーク時には本人や家族から詳しい聞き取りを行い、アセスメントに記載している。	/	/	◎	入居時に、センター方式のアセスメントシートを活用して、計画作成担当者等は利用者や家族から生活歴や趣味嗜好等を聞き、記録している。また、以前利用していた介護支援専門員から情報を聞くほか、病院へ入院していた場合には、退院時のカンファレンスに計画作成担当者等が参加し、情報を確認することもある。さらに、把握した内容はアセスメントシートに記載するとともに、ミーティング時等を活用して話し合い、情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の暮らしの中で把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の言動を観察し、把握し共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	変化があった場合には申し送りや職員間で話し合いを行い、検討している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	毎日の介護記録を確認し、異常や変化に気付いている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	どのようにすればいいか職員間で話し合いを行っているが、職員主体になっていることもある。	/	/	○	月1回実施するミーティングで、飲み物やお菓子などを用意して、話しやすい雰囲気づくりを行い、職員間で話し合いをしている。事前に、利用者や家族から意見を聞くとともに、定期受診の際に、主治医から所見などの情報を聞き、アセスメント情報を交えながら、職員間で話し合い、より良いサービスの提供を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	日々の職員間の話やミーティング時に一人一人の生活の様子を検討し、アイデアや意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	アセスメントやケアプランを確認し、課題を確認している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム虹の森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	具体的な本人や家族の言葉をアセスメントに取り込み、作成している。				事前に、利用者や家族の思いや意向を聞くほか、主治医から所見を聞き、職員間で主体的に意見やアイデアを出し合いながら話し合い、計画作成担当者を中心に介護計画を作成している。計画の内容には、「月1回、自宅に帰る」など、具体的な利用者が発した言葉を反映するとともに、1か月単位の、「食器洗いをする、足上げを10回する」などの日々の目標を作成して、職員は目標達成に向けて取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族に意向を伺い、具体的な課題を出している。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の意思確認は困難だが、家族の意向やこれまでの過ごし方を取り入れている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族との連携は必ず取り入れるようにしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	ケアプランを何時でも確認できるよう、介護記録にファイルしている。			◎	介護計画の内容は、ミーティング時を活用して職員間で話し合い、情報を共有するほか、事務所に利用者一人ひとりの介護記録などを綴じたファイルを置き、職員はいつでも計画を確認できるようにしている。また、サービスの実施記録は、24時間の様子や1日の流れが記載できるようになっており、職員は具体的な記録を残すことができています。さらに、利用者の発した言葉や表情などを記録に残すことができています。詳細な記録には職員間で個人差が見られ、管理者等は個別に指導をする場合もある。加えて、毎月や日々の目標に対しても、評価を行うことができています。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	日々の介護記録や毎月のミーティング時に話し合い、記録に残している。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々の介護記録に気付いたことや変化を記入できている。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	アイデアや実施記録などの記入は乏しい。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6か月に1回の見直しを行っている。				○ 介護計画は、要介護認定の期間に合わせて、6か月に1回を基本として見直しをしている。また、担当職員を中心に、利用者の現状を確認するとともに、ミーティング時に報告して職員間で話し合い、情報を共有している。さらに、計画の変更前には、計画作成担当者を中心にコメントを残し、評価をしている。加えて、入退院時などの変化が見られた場合には家族に相談するとともに、必要に応じて、現状に即した介護計画の作成をしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月に1回のミーティング時に一人一人の状況等の確認を行い、記録に残している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	適時家族に連絡し、報告や相談を行い、プランに取り入れている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月のミーティングで話し合いをしている。				○ 月1回実施するミーティングを活用して話し合うほか、訪問調査月の前月から、法人内で合同ミーティングを再開している。長年働く職員も多く、会議では職員同士で思ったことを伝え合うことができています。また、事前に参加しやすいよう日程調整を行い、夕方の時間帯に、ほぼ全ての職員の参加を得て、開催することができています。さらに、参加できなかった職員には、ミーティング議事録や申し送りノートなどを確認してもらい、情報を共有をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	テーブルを囲み、明るい雰囲気の中話し合いをしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務の状態での参加が難しいが、可能な職員は参加している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録をファイリングし、確認をしている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	日々の申し送り帳で共有している。			◎	毎日、朝夕に時間をかけて申し送りを実施するほか、早出などの職員の出勤時には、職員間で伝達をしている。また、日々の申し送り帳や申し送りノートなどを、職員は出勤時に確認するとともに、確認後にはサインを残し、確実な申し送りにつなげている。さらに、サイン等がない場合には、管理者等から記録の確認を促している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	確認印などで、閲覧の確認を取り、共有できているか確認している。また、業務の中で、話し合う時間を持っている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	言動を観察し、把握するように努めているが、認知症の進行している方についての細かな確認が難しく、職員側が決めていることが多い。	/	/	/	利用者から思いなどの発言は少ないものの、「散歩に行きたい」などの意見を聞き逃さないようにして、可能な範囲で職員は実現できるよう支援している。レクリエーションや外出、入浴支援など、利用者が何でも「はい」と返事をすることが多く、事業所の1日の流れになってしまうこともあるが、利用者の好きなカラオケや散歩などを取り入れながら、利用者が楽しみのある生活が送れるよう支援している。また、入浴前には、衣類準備を利用者に確認しながら、職員と一緒に行動とともに、自己決定できる方には声かけを行い、おやつ選びや入浴の有無など、自己決定してもらえよう支援している。さらに、家族の来訪時には、利用者の生き生きとした表情が見られ、玄関先での面会や外出なども、臨機応変に対応している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	支援を行う際には本人に確認し、出来る限り本人の意思を表出して頂けるよう声掛けしている。が、進行している場合には確認せずに行っていることもある。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人に決めて頂ける声掛けを行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	介助によっては、時間を決めてもいることもあるが、概ね、一人一人のペースで進めている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	穏やかで落ち着いた雰囲気作りで努めている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	これまで過ごしてきた状況を把握し、表情の観察などで反応を見ながら支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	全体ミーティングや施設ミーティング時に、研修で学んでいる。認知症に対しての理解に合わせ、ゆっくり丁寧な態度に努めている。	◎	○	◎	前回の目標達成計画に、「利用者の人格の尊重や敬意を払うこと」などを取り上げて、職員間で取り組んでいる。一部職員が人事異動等で入れ替わり、月2回程度実施する社内研修やミーティング時の勉強会を活用して、職員間で認知症の理解の促進などにも努めている。また、長年勤務する職員も多く、大きな声を発するなど、不適切な対応が見られた場合には、職員同士で注意し合える関係づくりができています。さらに、居室への入室時には、職員はノックや声かけをして、利用者の了承を得てから入室するよう努めているものの、時には、慌てると抜けてしまい、後で職員自ら気づくこともあり、管理者等は注意喚起をすることもある。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	排泄の確認時など配慮をしているが、時に大きな声になることもある。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	できる事はして頂く、ドアの開けっ放しにしないなどの配慮をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	本人の居室に入る際には、本人の了承を得て、出来れば一緒にいる。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	入社時に説明を受け、誓約書を交わして実施している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	人生の先輩として、教えて頂いたことや手伝って頂いたことに対し、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	利用者から漬物の漬け方などを教えてもらうこともあり、職員は、「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝えている。利用者同士で、エプロンなどを着けるの手伝ったり、「がんばって、食べや」などの声かけをしたり、ティッシュを取るなど、助け合う場面も見られる。時には、利用者同士の馬が合わず、言い合いになることもあるものの、配席を少し離したり、職員が間に入ったりするなど、早期の対応に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らすしていくことの大切さを理解している。	○	互いにできる事出来ない事を補いあいながら暮らしていくことを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	1人ひとりの性格や症状を把握し、席の工夫や過ごし方の工夫をしている。テーブルを拭いて頂く方に対してみんなでお礼を伝える等を行っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	必要な場合には、席の異動や環境の整備を行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム虹の森

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	基本情報をもとに、職員間で共有している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	”				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	◎	自宅の近所の方の来所が多く、ホールで一緒に過ごせる穏やかな雰囲気作りが出来ている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	馴染みの方の来所が多く、ホールや居室と一緒に過ごせる暖かい環境づくりを心掛け、実践できている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	外気浴や日光浴、近くの散策を実施している。	○	×	○	コロナ禍においても感染対策を図りながら、事業所周辺を日常的に散歩したり、家族の希望に応じて、外出や外泊などができるよう支援している。また、車いすを使用している利用者にも同様に、散歩や外気浴をしてもらうことができている。さらに、同法人の他施設と合同で、敬老会やクリスマス会などを開催し、利用者同士の交流を図ることもある。さらに、外出が減っていることもあり、少しでも利用者に季節の移り変わり分かるよう、事業所内に季節に応じた飾りつけをしようとしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力がもたせながら、外出支援をすすめている。	△	感染症対策から、ボランティアは出入りできていないが、家族との外出外泊支援をしている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	車椅子で外気浴・散策をしている。			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	一部の利用者となるが、家族と外出・外泊が出来ている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症研修会を定期的に開き、一人ひとりの症状や変化を理解し、アセスメントを行っている。				足上げや歩行訓練など、利用者の状況に合わせて、日々の目標に取り組みとともに、日々の体操などを取り入れながら、利用者の心身機能の維持に努めている。中には、他の施設で車いすを使用していた利用者が、歩行訓練などを行うことにより、自分で立てて歩行できるようになった事例もある。また、刻みや一口サイズにすることにより、利用者自身で食事を摂れるよう支援している。さらに、着替え時に、右手と左手を交互に出してもらするなど、少しでも自分でできることをしてもらえよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	1人1人に合った生活様式を提案し、食事や活動の支援に活かしている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	気長に見守り、一緒にするようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	アセスメントを共有し、得意な事や喜ばれる事を把握している。				洗濯物たたみや台拭きなど、日々自然にできている利用者もいる。お盆運びや調理の手伝い、食器洗い、漬物漬けなど、利用者の出番や役割づくりを努めている。また、認知症が進行しても、以前からしていた食器洗いやカレンダーの日付替えなど、可能な範囲でできることをしてもらえよう支援している。加えて、クリスマス会での被り物で仮装をするなど、職員は少しでも利用者を楽しみや張り合いが持てるような支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	食事の準備や片づけ等の家事の参加やできる事のレクの準備を行っている。。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	感染症もあって、地域に出掛ける機会が持てなかった。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	1人1人の趣味・嗜好を把握し、服の着こなしや身だしなみを見守っている。必要な場合には手直しを行っている。				着替え時に、自分で身だしなみを整えることのできる利用者は少なくなっているものの、職員は声かけや見守りをしながら、介助をすることができている。自己決定のしにくい利用者には、家族に確認したり、表情の変化を観察しながら気持ちの理解に努めるなど、少しでも本人らしい生活が送れるよう支援している。また、整容の乱れや食べこぼしが見られた場合には、居室に移動して着替えてもらったり、さりげなくフォローをしたりするなどの支援もしている。さらに、利用者が行きつけの美容室に出かけるほか、定期的に事業所で使い慣れた床屋に出かけ、整髪や整容を整えることもできている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	これまで使っていた家具を使って頂き、見覚えのある物を継続的に使用している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	表情の変化を観察し、気持ちを理解している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	これまで着ていた服を使用しており、個性や着こなしを理解し、季節に応じアドバイスを行っている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	さりげなくティッシュを渡したり拭いたりしている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	○	本人の希望の所に出掛けている。または、事業所行きつけの床屋にお連れしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	介助により身だしなみを整え行きつけの床屋に行けている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	研修会や日頃の介助で学んでいる。				外部の委託業者が、敷地内にある共同厨房で、調理をしている。事業所内で、職員が炊飯や汁物を作るとともに、食材が届けられ、盛り付けて利用者に提供をしている。月7回程度、チャーハンやカレーなどの材料が届き、事業所内のキッチンで職員と利用者が一緒に調理することもある。中には、台拭きや食器の片づけを手伝っている利用者もいる。また、事業所には月1回事前に献立が届けられ、旬の食材や行事に応じた行事食も提供され、少しでも利用者が食事が楽しめるよう支援している。食器類は、利用者に使い慣れた物を持ってきてもらうとともに、状態に合わせて、使用しやすい物に変更をしている。さらに、利用者の状態に合わせて、刻みや一口サイズなどの食事形態に対応することもできている。食事の際には、利用者と一緒のテーブルを囲み、見守りや介助をしながら、同じ食事を食べることができている。加えて、不評や食べにくい食事の時には厨房に伝えるとともに、職員間で食事の話し合いをすることもできている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	食事は外部発注のため、事務所では作っていないが、時に簡単な調理や準備と一緒にしている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	片付けや洗い物をして頂く事で参加して頂いている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所時に聞き取りを行い、把握して報告をしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	外部の献立以外に、もらい物の野菜を調理師メニューに入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	1人1人に合った食事形態を提供し、食器は家庭的な食器で使いやすいものを使用している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	使っていたものを持参して頂く様にしているが、状態により、こちらが準備している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	◎	見守りを兼ねて、一緒に食事を摂っている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	カウンター式キッチンで、ホールからもその様子や音がうかがえる。介助の前にはメニューを伝える。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	日々の食事や水分量の摂取状況を記録に残し、必要な場合には補食・補水を行っている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事形態の見直しやタイミングを見直しながら取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	外部栄養士にてバランスのよいメニューになっている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	キッチンは毎日消毒を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	定期的な研修会や日々の支援での経験で理解できている。				6か月に1回、アセスメントシートの更新時には、口腔内のアセスメントを行い、状況を把握して記録に残すことができている。また、職員は社内研修や歯科医からアドバイスを受けて、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後、利用者は洗面台で、歯磨きなどの口腔ケアを実施し、自分で歯磨きをしている利用者の口腔内を含めて、ほぼ毎日、全ての利用者の口腔内の状況を確認することができている。さらに、夜間には義歯を預かり、洗浄を行うとともに、異常が見られた場合には、早期の歯科受診等につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	アセスメントの際、口腔内アセスメントを行い、把握できている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	歯科受診・往診の際にアドバイスを頂き、活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	毎日消毒出来るよう声かけを行い、実施できている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	1日3回の口腔ケアを実施している。その際、口腔内観察が出来ている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	異常を発見した場合には、かかりつけの歯科医に行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	研修会や日々の支援の中での実践で理解できている。				ほとんどの利用者は、紙パンツを使用している。職員は介護記録で排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導をしている。入居時に、紙パンツを履いていた利用者が、声かけやこまめなトイレ誘導をすることにより、布パンツに変更できた事例もある。また、紙パンツやパッドなどの排泄用品の使用時には、職員間で話し合うことができている。さらに、牛乳の提供や運動などにより、利用者の便秘防止に努めるとともに、医師に相談しながら服薬を行うなど、快適な排便が行えるよう支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	日々のケアの中で、話し合い・アドバイスを理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日のパターンを理解できている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	なるべくトイレで排泄できることを目標とし、1人1人の時間で誘導するよう心掛けている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	水分摂取や歩くなどの活動面での支援を行っている。飲める方については牛乳を提供している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄パターンをさぐり、早めの誘導を心掛けている。拒否がある時は無理強いしていない。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	日中と夜間を使い分け本人、家族・職員間で相談しながら動いている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	状況や変化に応じ、使い分けしているが、簡単に紙パンツやオムツに変えないように努めている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	牛乳の提供や歩行を促すなどの活動に努めている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	基本的に曜日を決めていたが、最近は、ご利用者の状況や意向で曜日を変えて入っているケースが多くなっている。	◎		○	利用者は、午前中の時間帯を活用して、週3回入浴をすることができる。利用者の希望に応じて、入浴日の変更や入浴の長さなど、柔軟に対応している。事業所には、リフト浴の設備もあり、利用者の状態に合わせて使用し、安心安全な入浴支援をしている。また、入浴を拒む利用者には、声かけのタイミングや日程変更などの工夫をしながら入浴してもらうとともに、重度で入浴が難しくなった利用者には、清拭の対応をしている。さらに、利用者が楽しめるよう、季節に応じてゆず湯などの対応もしている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	1対1介護にて、ゆとりと時間を使い、のんびり入って頂けるよう支援出来ている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	心身の状況により、一般浴と機械浴を使い分け、手すり、滑り止めを設置し、常に付き添い見守っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	無理強いせず、時間や日を見直している。誘うタイミングや誘い方など工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタル測定し、状態を把握している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤者からの申し送りや介護記録などで、職員が共有できている。				事業所では介護記録で、利用者の夜間の睡眠状況を把握し、現在は良眠することができている。中には、体調面を考慮して、医師と相談しながら、眠剤などを服薬している利用者もいる。また、利用者の起床時間に合わせて、朝食の時間を遅らせる対応もしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	大きな不眠はないが、日中の活動を増やすなどの工夫は継続的に行っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	日頃の精神的な状態を把握し、医師と相談しながら支援している。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	心身の状況により、居室での静養時間を設けている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	本人がする事は殆どない。電話を変ったり、支援をしている方もいる。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	”				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	別室に電話を設けているが、ゆっくり話をする場面は少ない。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	必ず本人に見て頂き、必要に応じ返信の支援をしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	要望が少なく、頻回な支援はしていないが、電話がかかってきて替わることもある。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人にとって、大事な物や気になる物を自分で持つ事は精神的にもいい事は理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	個人で保持している方も居られ、買い物も行っている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	特に地元の協力を仰いでおらず、付き添っている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	1人1人の管理能力の違いや家族の希望もあり、お金の所持については積極的に取り組んでいない。また、事業所での預かりもしていない。2名は自分で持っている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	主に、入所時に相談して決めている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	トラブル防止の為、低額な買い物は事業所の立替で行っている。お金の動きのあった場合には家族に、残高などの報告を行う。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	入退院時の対応や緊急時の対応等。	○		◎	現在のコロナ禍においても、感染状況を見計らいながら、利用者や家族の希望に応じて、外出や外泊など、柔軟に対応することができている。また、遠方の家族には、病院への受診介助を、職員が同行の対応をすることもできる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関に植物を植え、明るい雰囲気作りを心掛けている。	◎	○	○	事業所の玄関前には、プランターにパンジーなどの花が植えられているほか、ベンチも設置され休憩できるようにしている。また、事業所の建物の下は駐車場になっており、建物は中2階にある。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	施設内バリアフリーで、個々の作りも家庭的であり、壁にはご利用者の作品や写真の提示をしている。	◎	○	◎	事業所は約1年前に建て替えられて新しく、バリアフリー構造となっており、スムーズな移動をすることもできるなど、利用者や来訪者は気持ち良さを感じる。日々の清掃や消毒が行き届き、空気清浄機などが置かれて換気もされ、快適な空間となっている。また、共用空間にはソファも置かれ、うたた寝をしている利用者もいる。さらに、事業所内に採光が入り明るく、カーテンなどを活用して、適度な明るさの調整をしている。加えて、誕生日の飾り付けや写真などを貼り、利用者との話題が弾むような工夫もされている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日の掃除で清潔が保持出来ている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	カーテンの調整で適度な光や風を取り入れている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	席やソファの位置を工夫している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	トイレや浴槽の位置が側面になっており、直接見えない。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅ですべてのタンスやベッドや飾りを持ち込んでいる。身体状況により、介護ベッドを入れている方もいる。	◎		○	居室の扉は3枚の引き戸で、車いすの使用などの用途に合わせて、一部ロックをして使用することもできる。また、居室には使い慣れたタンスやベッドなども持ち込むことができ、快適な空間となるよう支援をしている。さらに、夜間等にリビングの明かりが眩しく感じ、ガラスへの目張りの対応をした居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	室内はバリアフリーで手すりや標識の設置がある。			◎	事業所は新しく、バリアフリー構造となっており、利用者はスムーズに移動をすることができる。自身の部屋が分かりやすいよう、居室に自分の写真などを飾っている利用者もいる。また、テーブルには雑誌や鉛筆などを置き、利用者が自由に使用できるようにしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	危険な物は置かないように注意している。自分の部屋が分かるように大きく名前を表示し、迷いがなくなっている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	より塗り絵をされる為、鉛筆などを置き、本人が研ぐことが出来ている。雑誌やプリントをテーブルに置き、自分で選んで取り掛かっている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	身体拘束や虐待の研修会で施錠についての勉強会が出来、理解はしている。事業所が2階にあり、ベランダ横に階段がある為、夜間は施錠をしている。	◎	◎	◎	定期的に、身体拘束や虐待の防止の社内研修などを実施し、職員は鍵をかけることの弊害を理解している。日常的に、日中は玄関の施錠はしておらず、利用者は自由に出入りすることができる。また、外出願望のある利用者には、職員が付き添って散歩を行い、気分転換をしてもらうなどの対応もしている。さらに、夜間は防犯のため、玄関を18時30分頃に施錠し、朝は7時頃に開錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入所時や会議の際、日中は鍵を掛けない事を話している。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	言動のパターンを把握し、嫌悪感を抱かれないように、さりげなく付き添い、自然な声かけに努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	会議やファイルを共有し把握できている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	変化や異常が見られた場合には管理者に報告するとともに、介護記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	管理者・ケアマネ・看護師に報告する事が出来ており、報告後の受診や家族対応も迅速に出来ている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	地域の診療所が協力医となっており、自宅時から継続的に受診に行っている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	持病や治療のこだわりを聞き取り、希望の医療機関に受診に行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	異常や変化があった時には必ず家族に連絡し治療について、医療機関・家族事業所の話し合いを持っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	家族の同意を得、情報提供書を作成し、必ず提供をしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	治療の具合や退院のめどなどを家族と共に事業所にも細かく報告を頂き、医師の見解の元、退院の支援が出来ている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	協力医に定期受診時に情報の提供が出来ており、事業所の利用者についての把握をして頂いている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護職員・ケアマネに随時報告・相談し、必要に応じ、協力医(主治医)に連携・受診が出来ている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	協力医契約を交わしており、いつでも安心して相談できる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	心身の変化に合わせて、状況法徳を行い、主治医と共有できており、助言を頂きケアに活かしている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋の共有で理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	事業所で管理し、服薬の介助を行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	日常の状況を受診時に報告し、必要に応じ主治医にて見直しがある。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	特に排便の状況は日々行っており、服薬の変更を細かく行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入所時や必要になった場合には、本人や家族の意思や要望を随時伺い、主治医に報告。主治医は家族と直接話す機会を持ち、事業所を含め、共有した方針で勤める事が出来ている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合における(看取り)指針」がある。入居時には説明をすることは少ないものの、状態の変化に応じて、家族と主治医を交えて話し合い、方針を共有している。また、緊急時には、協力医との連携も取れ、迅速な対応をすることができている。さらに、事業所として看取り経験は少ないものの、可能な範囲で、医師や看護師の協力を得ながら、管理者や計画作成担当者、担当職員などのチーム体制で、支援を行うことができている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	必要になった場合には、家族・主治医・事業所3者が随時会議を開催し、話し合いを行い、今後支援について方針を決めている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	職員が安心して看取りケアに当たれるように、支援方針を伝え、具体的なケアの方法を決めている。必要な場合には主治医に相談している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	医療行為やケアについて、細かく・具体的にできる事・できない事・起こりうることを話すことが出来、文書にて、同じ同意を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	報告・相談を細かく行い、家族には安心と納得が得られる様子を配っており、それを主治医に伝え、家族・主治医・事業所が同じ方針を持つ事が出来ている。また、起こりうる過程を含め、主治医に協力して頂ける体制を持っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	気持ちの変化や戸惑いに対して、相談を受け、随時、気持ちを把握できるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	今年はコロナに対しての研修や取り組みを行った。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症マニュアルを整備し、職員間で共有している。また、面会簿や面会の方法を検討しながら進めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	日々、行政からの感染症発生報告のFAXをもらい、職員間で共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	”	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時から始まり、業務の中でも手洗い、消毒は徹底しており、来客者にも消毒の協力を得ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	遠方の家族様には電話や出が身で報告・緊急時の対応の相談を行い、可能な方は頻回に来所頂き、外出や外泊を行っている。				コロナ禍以前は、春の遠足や夏の納涼祭、秋の敬老会、冬のクリスマス会など、家族の参加を呼びかけて、行事を行うことができていた。また、コロナ禍においても、県の感染警戒レベルを見極めながら、早期に玄関先での面会にも対応をしている。また、電話連絡時に、家族に利用者の様子を伝えるほか、定期的に事業所便りを送付して、事業所の行事などの出来事を伝えることができています。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	玄関は花や置物を置き明るい雰囲気になるようにしている。面会者は居室やホールで一緒に過ごして頂けるよう、お茶や茶菓子を用意している。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	来所時にはホールでゆっくり過ごして頂いているが、家事の参加や宿泊などはしていない。		○			○
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	行事新聞や定期的な手紙で報告している。		○			○
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	状況の報告など電話で行い、その際に要望などを伺っている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会に来て頂いた際には必ず一緒に過ごす時間を持っていたり、家族に安心して頂けるよう努めている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進委員会で報告し、会議内容は全家族に送付している。		○			○
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族等の参加を促してはいるが、顔を合わず機会が少ない。家族会等が実施が出来ていない。					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	心身の状況を報告し、家族の要望等を伺い、支援に反映している。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族の言葉を職員に伝え、共有し、職員が家族と適切な内容で会話出来るよう努めている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約書に沿って説明を行い、署名・捺印を頂いている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	事例はないが、必要な情報の提供や相談を行う体制を整え、アフターフォローに努めて行けるようにしている。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	全家族にそれを文書で説明し、同意書を得ている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進委員会で報告し、理解を頂いているが、参加者以外にどこまで行き届いているかは不明である。	/	○	/	前回の目標達成計画に、「地域の中の事業所として、地域ネットワーク会議等でアピール」などを取り上げて、交流を持つことはできたものの、コロナ禍において、地域住民との交流はほとんどできていない。コロナ禍以前は、日舞やカラオケなど、行事の際にはボランティアを受け入れることができていた。さらに、法人内の他施設等の利用者と一緒に、夕涼み会や敬老会、運動会を実施するなど、利用者同士が交流して、楽しむこともできている。加えて、町内在住の職員が多く、地域の情報などを得ることもできている。コロナ禍の収束後には、できることから地域とのかかわりを少しずつ広めるなど、利用者が地域住民と交流を図りながら、生活が送れることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	散歩時などに挨拶など出来ており、施設やご利用者の存在を知って頂いており、祭りの際には神輿などに立ち寄って頂いている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	事業所の存在を把握して頂けており、受診時などには声を掛けて頂けている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	日常的に立ち寄って頂く機会は少ないが、お祭りや行事には少しだが参加があった。今年はコロナで行事がなかった。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	利用者の受診や散歩時に気軽に声を掛けて頂けている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	運営推進委員会やネットワーク会議等で、情報を頂き、協力を愛尾しているが、具体的な取り組みが出来ていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	買い物や散歩に出掛ける事で、地域での暮らしを感じて頂く。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	運営推進委員会に参加して頂き、施設の運営を理解して頂いている。いる。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	家族やご利用者の参加がある。	/	△	○	運営推進会議は、区長や民生委員などの地域住民、町担当者や社協、駐在所の警官など、多くの委員が任命され、法人内の他の事業所と小規模多機能居宅介護事業所の合同で開催をしている。コロナ禍において、別の建物で会議を行い、利用者の参加はできていない。また、全ての家族に会議への案内を出しているものの、仕事や遠方でほとんど参加を得ることはできていない。コロナ禍では書面開催としていたが、最近の2回は集合形式の会議を開催することができている。さらに、来訪者には会議録などを閲覧できるようにしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告して、協力を仰いでいる。また、結果についても報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	参加者全員の意見を毎回伺い、必要な時には会社に報告し、それを再度、会議で報告している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	定期的に開催時は決めているが、情勢や天候により、変更しながら行っている。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	していない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	立ち上げ時の理念を全職員が共有し、日々のケアに活かしている。全体ミーティング時に社長より理念の話がある。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	資料に添付することもあるが、周知出来ているかは不明。	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修などは難しい事もあるが、会社内の研修会は毎月参加出来ている。	/	/	/	法人・事業所として、月2回で社内研修や勉強会を実施し、職員のスキルアップにつなげている。外部研修への助成や、介護福祉士などの資格取得への支援にも取り組んでいる。また、代表者は法人の全体ミーティングに参加していることもあり、職員の声を聞くことができる。さらに、管理者等は申し送りやミーティング等の中で、職員から意見を聞くほか、職員同士でも話しやすい関係性ができている。加えて、法人・事業所として、有給休暇や希望休暇の取得のほか、日勤のみのシフトの希望に対応するなど、働きやすい職場環境づくりに努めており、職員同士や利用者との良好な関係が保たれ、近年離職者はいない。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	月に1回の全体学習やミーティング時の研修会で色々なテーマの学習が出来ている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	毎年の陳輩の見直しや、資格や役職・年数や評価を考慮した賃金体制となっている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	代表者及びその代理人によって、各業種や行政との連携に努めるべく、ネットワーク会議等研修会の参加を心掛けている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	管理者からの報告や相談を聴き、役員会で話し合い、改善に努めている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	定期的な研修会を開催し、虐待・不適切ケアについて学ぶ事が出来ている。	/	/	/	定期的に、社内研修や勉強会で虐待防止などを学び、職員は理解をしている。また、不適切な行為が見られた場合には、職員間で注意をしようとともに、重要な事態につながると判断された場合には、管理者等が該当職員に確認をして、注意喚起をしている。さらに、介護ベッドの4点の柵を使用している場合があり、管理者等は職員に安易に使用しないように伝えている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	定期的な役員会や管理者会を開催し、各事業所の報告や相談を受け、一緒に考える機会がある。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	マニュアルの共有で知ることが出来ている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	決済にて全事業所の勤務状況を確認し管理者からの報告をもとに、職員の状態や変化を把握しており、必要に応じ、移動や勤務状況の見直しを行っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	定期的な研修会をもとに、身体拘束はしない事を、全職員・家族に報告している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修の際や利用者の状況の変化時に話し合うことが出来ている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	事業所では身体拘束はしない事を説明し、理解を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	◎	地域の会議等で学べており、利点や活用事例が理解できている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	必要な事例がなく、積極的な取り組みは出来ていないが、今後必要になれば、適切な活用もいっている。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	社協や包括との日頃の関わりが持っており、相談しやすい環境にある。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルをファイルし共有している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	業務の中で、処置や対応などを具体的に説明し、職員も実践している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	発生時にはヒヤリハットの記入に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティング時に事故報告やヒヤリハットをもとに話し合いを行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルをファイルし共有している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	これまで事例はないが、苦情処理について、行政への報告や対応策を知っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に近い家族の意見や要望を、職員間で共有し、お互い気持ちよく、納得のいく支援が出来るよう努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者の意見の表出は難しい事もあり、直接意見が出る事は少ないが、日常の会話や態度で汲み取り、気持ちよく過ごせるよう努めている。			○	日々の会話の中で、利用者から意見を聞き、可能な範囲で日々の目標等に取り入れながら、柔軟に対応をしている。利用者からは、返事の「はい」しか聞かれないことが多いため、職員は意見を聞き逃さないよう努めている。家族からは、面会時や電話連絡時などを活用して、意見や要望を聞いている。また、管理者等は、日々の業務やミーティング時に職員から意見を聞き、職員も管理者等に話しやすく、思ったことを伝えることができている。さらに、職員の意見から、カラオケ設備の購入につながり、利用者等に喜ばれている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進委員会や電話でのやり取りで、要望や意見が言いやすい環境を作っている。		○		
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時の説明以外に、改めて説明する機会は少ない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に事業所を訪れ、職員と話す機会を持っている。全体ミーティング時に代表の話が聞けている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	日々の業務の中での職員目線の意見や要望を随時話しが出来、運営に活かせるよう努めている。			◎	

愛媛県グループホーム虹の森

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	評価時の自己評価は出来ているが、定期的な取り組みは出来ていない。				外部評価の自己評価は、ミーティング時を活用して、職員間で話し合うとともに、計画作成担当者がまとめて作成し、管理者が確認をしている。また、自己評価の作成から、職員の不足している所やいい所などの気づきもあり、職員間で話し合いもしている。さらに、運営推進会議の中で、サービスの評価結果や目標達成計画を報告し、意見をもらうことができている。今後は、家族や運営推進会議の委員に取組み状況の確認などのモニターの協力を呼びかけたり、サービスの評価結果を簡潔に取りまとめて家族に送付したりするなど、サービス評価の取組みが、サービスの質の向上につながることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価結果をもとに、事業所のいい所・不足している所が具体的に見えている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	具体的な目標設定が出来、取り組みが出来ている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進委員会にて報告している。	△	△	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進委員会にて報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	防災計画や避難訓練計画・実践を通じ、マニュアルを共有している。				法人内の他施設等との合同で訓練を実施するとともに、事業所の単独で、昼夜を想定した避難訓練を実施している。法人内で災害時の協力体制はできているものの、コロナ禍もあり、近隣住民等との合同訓練の実施にまでは至っていない。また、コロナ禍以前は、地域の防災訓練に、職員が参加協力することができていた。さらに、訓練の様子は、運営推進会議の中で報告して、意見をもらうこともできている。利用者家族等アンケートの結果から、家族に災害時の対応などの十分な理解が得られていないことがうかがえるため、事業所便りを利用して防災訓練の様子を伝えたり、事業所内に防災訓練の様子の写真を貼ったりするなど、家族に理解が得られるような取組みを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中・夜間想定で避難訓練が実施出来ている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	非常食の確保方法や賞味期限の確認を随時行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進委員会にて報告している。災害時に話が出て、地域の避難訓練や避難箇所の確認が出来ている。防災マップの活用。	×	△	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	〃				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	定期的にネットワーク会議にて事業所の活動の報告が出来ており、地域の活動の参加やボランティアの協力の話も出来ている。				町内には、行政を含む、医療や保健、福祉関係者で組織する「地域ネットワーク会議」があり、事業所として参画するとともに、連携・協力体制が構築されている。また、月1回会議を開催して、課題などの意見交換を行うこともできている。アンケートで、会議で話し合いたい内容を伝えることもでき、行政に法人内で行う研修に参加協力してもらうこともできている。さらに、事業所への相談は少ないものの、相談があった場合には快く対応するとともに、必要に応じて関係機関へつなげている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	包括や社協から利用の相談があった時には、本人や家族と会い、相談業務を行っている。		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	近くの集会所に出掛け、毎年イベントを行っている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	受け入れ体制を整えているが、事例はない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	ネットワーク会議の参加で、町内の各職種の方と話しをする機会がある。			○	